東京水景デザイン・サーベイ　東京下町の水辺空間の復権 第３回イベント

調査・セミナー ≪水郷：佐原 まちづくり探訪≫

【日時】2023 年 3 月 18 日 (土)10：00 ～ 16：00

【調査地域】千葉県香取市佐原

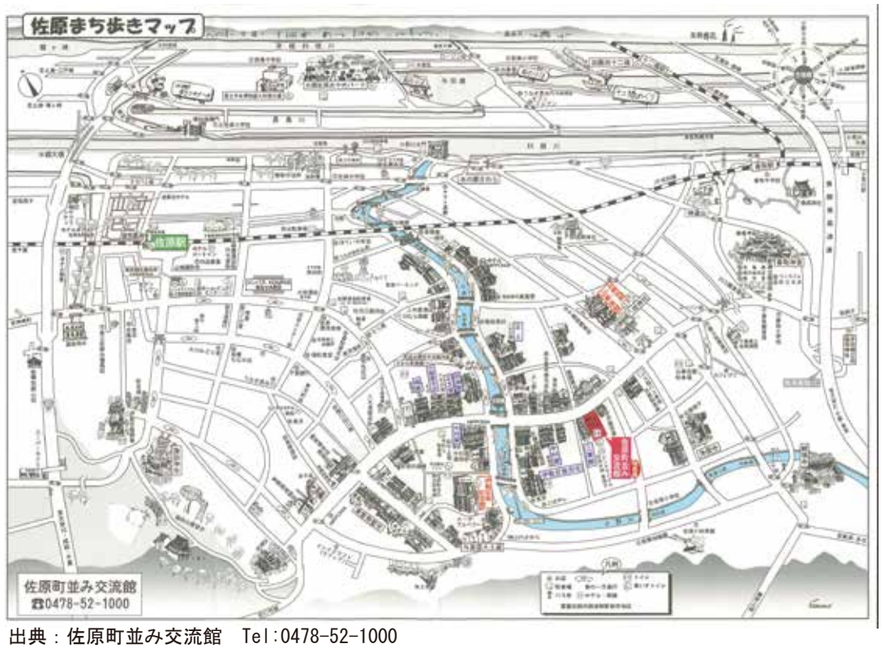
【参加者】25 名程度（学生 9 名）

今回のイベントでは、千葉県の水辺空間を活かしたまちづくりについて学ぶため、2016 年に「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」として日本遺産に認定された千葉県香取市佐原を調査した。“小野川と佐原のまちなみを考える会“理事長 佐藤健太良氏よりをレクチャーを受けた後、小野川を中心とする佐原のまちを散策した。

■講師レクチャー：佐藤健太良氏（小野川と佐原のまちなみを考える会 理事長）

まず初めに、佐原町並み交流館にて、佐原の概要、歴史、小野川と佐原のまちなみを考える会について、佐藤氏からお話をいただいた。佐原は、明治期ごろに利根川や小野川といった川を通したことで流通の道が生まれ、江戸との交流によって栄え、それに加えて、酒や醤油といった醸造業、天皇との関わりを持つ香取神宮などによって繁栄した。そして、昭和中期～後期にかけて小野川が徐々に駐車場になってしまったり、大型店舗ができたことをきっかけに、本格的な保存運動が始まった。これまでも、１つの建物ごとの保存はされてきたが、ここからは景観として、まちでの保存が始まり、1974 年文化庁は市街地の開発によって全国的に破壊されつつある伝統的な景観を保護するため、いくつかの地区を対象に調査を計画した。佐原も、河港商業都市としての景観を良く残しているとして、全国最初の 10 地区の選定対象に選ばれた。佐原市が主体となって、国や県の補助を受けつつ調査し、調査結果は当時千葉大学工学部教授大河直躬らの手により翌年に報告書としてまとめられ、1983 年 3 月に大河直躬教授（担当福川裕一教授）によって「河港都市と水郷」- よみがえれ水郷の商都 - という調査報告書が提出された。これは、ナショナルトラストが手がけた調査の報告書で、佐原の町並みには文化財としての価値があることが認められることに繋がり、小野川と佐原のまちなみを考える会を中心に、景観条例から、重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に認定されるため、小野川の掃除や資金要請など様々な活動を行なった。その結果、1996 年重伝建に選定された。

現在の佐原は、「小江戸」として、ユネスコ無形文化遺産・重要文化財に登録されている大祭や、重伝建地区である小野川のまちなみ、国宝・伊能忠敬を中心に、観光業に力を入れている。



出典：佐原町並み交流館　Tel:0478-52-1000

講師レクチャーの様子

まち歩きの様子

■セミナーに参加して

今回のまち歩きセミナーでは、水郷・佐原に訪れ、水辺空間を活かしたまちづくりについて学ぶことができた。当日は、あいにくの雨であったが、佐原駅を降り、佐原町並み交流館まで向かっている途中、八木清商店を曲がると小江戸と呼ばれる佐原の町並みが現れ、そこまでとは異なった町並みに驚いたのを覚えている。また、さまざまな解説をしていただいた中で、この今の佐原の景色ができるまでのいろいろな立場の人との関係性や対立等を知り、これまでの険しかった道のりを知ると同時にこれからどうしていきたいかという佐原の方々の展望を聞き、佐原という町に興味が湧いた。重伝建地区は特に、小野川との調和がとれた江戸のまち並みが魅力的であった。実測を①伊能忠敬旧宅―記念館前②旧油惣商店前③服新呉服店で行ったが、感覚的に測っていたものをしっかりと数字で表すことによって見えてくることや、水深など測らなければわからないものを知ることができた。今回のまち歩きでは、優れた佐原のまちなみを楽しむとともに、水辺空間との関わりや、まち並みの保存を考えるきっかけとなった。（千葉大学・菊地、山下）

■三菱銀行佐原支店旧本館

模型写真

カウンター、回廊

螺旋階段

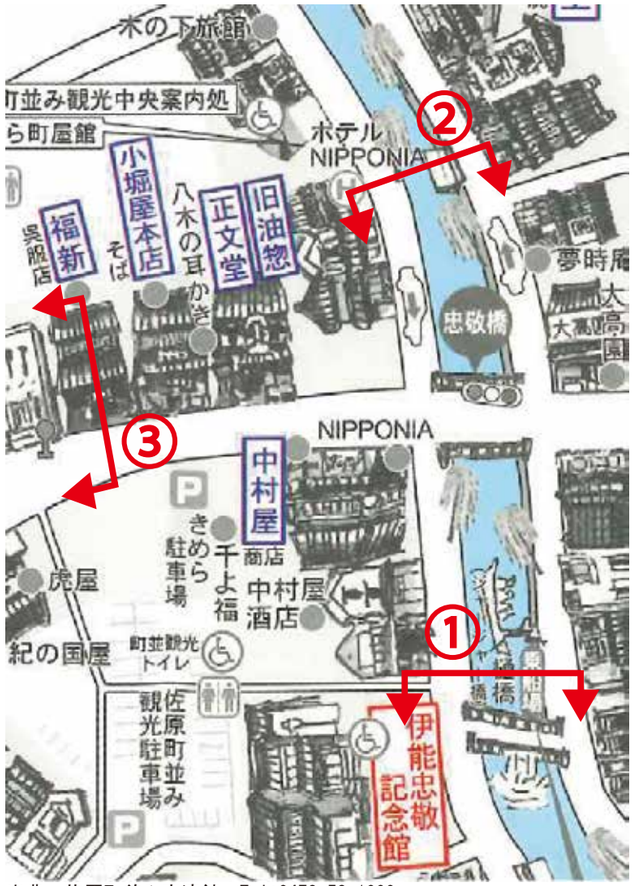
三菱館は、川崎銀行佐原支店の店舗として、大正 3 年（1914 年）に清水満之助商店（現清水建設）の辰野金吾の弟子の一人によって建てられ、1991 年に国の有形文化財に指定された。煉瓦造 2 階建で、部屋の隅にはドームを設け、煉瓦タイルと花崗岩のルネサンス様式を採用しており、また採光と防火シャッターの開閉などのため、1 階の吹き抜けや回廊が設けられている。当時の絵はがきや写真から細部を復元しており、特に螺旋階段とカウンターは、その造形美に目を惹かれる。川崎銀行は、1943 年に三菱銀行と合併して三菱銀行になった後、昭和の終わりまで三菱銀行佐原支店として、地域の金融を支えるとともに、地元の人々の生活に溶け込んでいた。1989 年、新店舗の感性に伴い、佐原市（当時）に寄贈され、戦後の長い期間を三菱銀行佐原支店として使われてきたため、文化財の指定名称は、三菱銀行佐原支店旧本館とされた。瓦屋根が多い佐原の商家のまちなみの中に、三菱館の赤煉瓦が溶け込んでいる。

■植田屋荒物店、福新呉服屋、さわら町屋館、正上

さわら町屋館

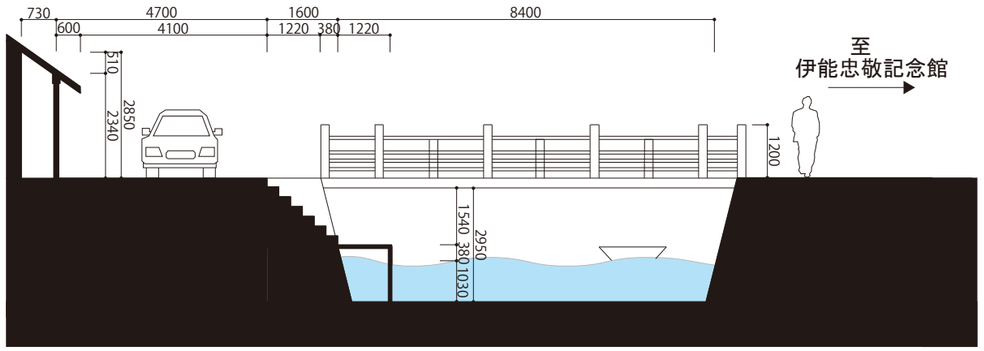
正上

重伝建地区には特に、隆盛を極めた当時を彷彿とさせる古い商家が立ち並び、水郷商都として歴史的景観をよく残している。明治期からの家業を引き継ぎ、現在も雑貨や衣類を扱っている店舗が多い。土蔵や商家は、防火のため土葺きや漆喰塗りで、窓が小さく、丸太の柱梁が見える構造になっている。中でも、福新呉服店と正上（1832 年建築の醤油・佃煮屋）は千葉県有形文化財に指定されている。



出典：佐原町並み交流館　Tel:0478-52-1000

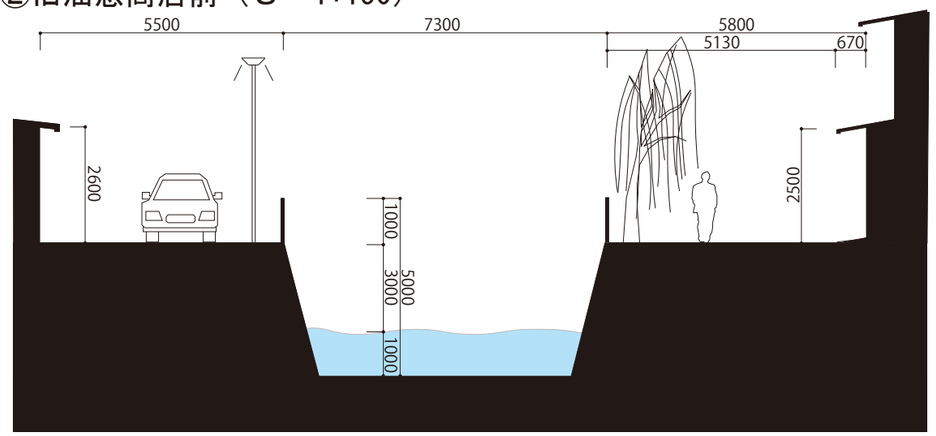
①伊能忠敬旧宅一記念館前（S＝1:150）



①は伊能忠敬旧宅から記念館へ向かうための橋が架かり、船に乗るための船着き場がある。

橋や船着き場といった親水空間が魅力的である。しかし、船着き場へ向かう階段は、蹴上190mm・踏面240mmとすこし急であると感じた。

②旧油惣商店前（S＝1:150）

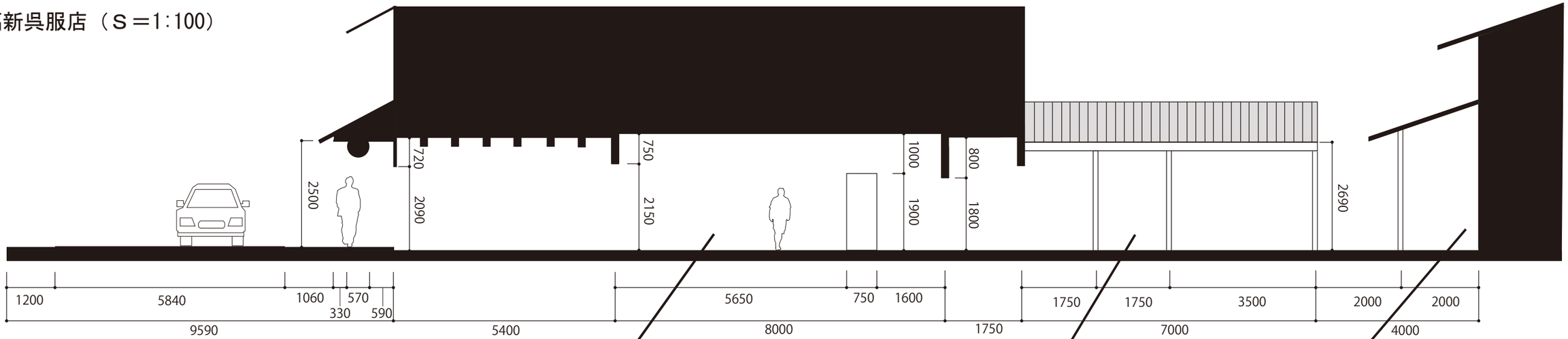


②旧油惣（きゅうあぶらそう）商店は、問屋を営んできた商家で、店舗と土蔵は県指定有形文化財に指定されている。

川辺には手すりや街灯、背の高い植栽があり、そこに川辺方向に軒が伸びる昔ながらの建物が立ち並ぶ水郷のまち並みが残る。

①は②に比べて、船着き場があるため１mほど川幅が広くなっている。その分②は道幅が広くなっており、人や車両が通りやすく、植栽も多く見られる。

③福新呉服店（S＝1:100）



福新呉服店は1804年創業で、店舗は火災に備え、前面と側面を土蔵造りとしている。1868年に増建築された土蔵が奥にあり、周囲から火が侵入することを防ぐ構造となっている。坪庭もつくられ、採光、通風などにも配慮され、当時の上層商人の家造りをよく残している。

坪庭にトイレが２つある。これは昔の商屋での身分の違いを表している。主人と使用人で違うトイレを使っていた。

当時は防火のため、扉を閉めた上から泥で塗り固めていた。
土を練るためのくぼみが扉の横に残っている。